

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3071600518		
法人名	社会福祉法人 平成福祉会		
事業所名(ユニット名)	かぐのみ苑湯浅グループホーム さくら町		
所在地	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2032-1		
自己評価作成日	平成23年7月25日	評価結果市町村受理日	平成23年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071600518&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaikokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071600518&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年9月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域住民との交流を大切にしていきたいという事で地域の催し物等に積極的に参加している。又小学校や中学校との交流も毎年行われ、児童・生徒と触れ合う機会も作っています。苑内では残存機能を生かすために家事(掃除や調理)での手作業から手すりなど持つての歩行訓練など日頃より力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は、主任や計画作成者にホームの生活全体を委任しており、委任された担当者や職員は地域とのつながりや交流を大切にサービスの提供を行っている。それらが反映され、以前利用されていた方の家族がボランティアとしてお手伝いに来られるなど、職員の接遇や人間性に応えられている。またホームの理念にそって、より良いサービスを提供するために、毎月、全職員が勉強会に参加し、職員の質向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が意見を出し合い地域密着を踏まえた理念を作り毎朝唱和することで実践につなげている。	地域密着を踏まえた理念を皆で作り上げ、日々の関わりの中で常に地域の方たちとの関わりを大切にしており、ホームを理解してもらえるように毎朝唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町や区の行事に参加している。(ぶどう狩り、敬老会、秋祭り、老人運動会など)また苑の夏祭りを地域に開放している。	自治会に加入し、町や区の行事であるぶどう狩りや敬老会、秋祭り、老人運動会などに参加している。また、湯浅小学校との交流や中学生の職業体験、高校生の実習受け入れ、地域の方に苑の夏祭りを開放したりと、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回苑便りを作成し、地域に配布している。地域の小中高校生の受入(交流、職業体験、実習、もちつき大会等)、近隣のスーパー等への買物、やすらぎサロンへの参加など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催し、行事、入退居者状況の報告等行っている。家族、役場の職員、民生委員の意見を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催されており、民生委員、役場の福祉課長、家族の代表、苑からは理事長・園長・主任が参加している。入退居者の状況報告や地域との関わり、行事の提案を行い、意見を頂いきサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所者の報告や地域包括支援センターとも連携を取り、ホームの入居状況に合わせ、入所やショートステイ利用が必要な方がおられたら対応出来るようにしている。	市町村には常に入退居者の報告を行なっている。また、入居やショートステイの利用が必要な方に情報提供が行えるよう、市町村から包括支援センターや各事業所に連携を取ってもらうなど、お互いに情報交換をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を設け実践につなげている。立地上やむを得ずエレベーターは安易に使用できないようにしているがホーム内は自由に行き来してもらえるようにしている。	歩行不安定な方にソファを利用したり、ベツから転倒しやすい人はベツの下にマットを敷いたり、畳の部屋を利用していただくなど拘束しない環境を整えている。また、身体拘束の研修はもちろんのこと、「スピーチロック」の研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学んでおり虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでおり必要時それらの制度を活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には利用者、家族に疑問や不安等ないよう、十分に説明を行い理解・納得して利用していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から関係作りに努め要望意見を伝えてもらえるよう配慮している。苑内には投書ポストを設置、また外部への苦情窓口も設けている。	家族とは面会に来られたときに話しをする機会を持ち、意見・要望を聞き、朝礼などで報告したり、外部評価を開示し施設運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で意見や提案を出し、それらを反映できるようにしている。	ホームの会議は毎月末に、また同法人の事業所の全体会議には理事長も参加し月1回開催され、職員の意見を聞く機会となっている。これらの会議で出された意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施し昇給や賞与に反映、個々に応じた労働条件で働けるよう就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会の開催、新人研修、法人外の研修を受ける機会の確保、職員の力量に応じて現場においても指導を行っている。また介護雇用プログラムによる職員の受け入れを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加盟しており相互実習や研修会が開催された時は参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の要望等を確認、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。希望者には一日体験や見学をしてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なく利用していただけるよう、困っていること、要望など伝えてもらい信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況や本人の気持ちを尊重しデイサービス、ショートステイを利用することで徐々にサービスに慣れていけるよう段階を踏んで入所していただくケースも多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の調理、洗濯など日常生活を一緒に行う中で入居者から学ぶ事も多く、共に支え合い良い関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加への呼びかけ、通院や外出支援、面会など各家族の可能な範囲で協力をお願いし、共に本人を支えていく関係作りが出来るよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などの面会、家族との外出・外泊を自由にしていただくことでこれまでの関係が途切れないようにしている。また苑からの外出支援では一人一人の馴染みの場所へ行けるよう取り組んでいる。	今まで一緒に生活してきた家族や地域の方達との関りが途切れないよう、自宅や地域への外出や外泊が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を把握し席や作業の場所の配慮を行う事で利用者同士が関わりながら一人一人に合った作業が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退苑になった場合等必要に応じ、他サービスにつなげられるよう支援を行ったり、家族とは行事の際、ボランティアとして参加していただいたり関係を断ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向の把握、また思いを表すのが困難な方は日々の暮らしや会話の中で要望等を推測し、その人らしい暮らしを続けられるよう努めている。	日ごろの生活から何気ない仕草や言葉を拾い、ケース記録に記入し、それらから意向や思いを把握している。困難な場合は家族から聞き取ったことを参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント用紙を活用し入所前に家族に記入してもらったり、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態、気付きなどをセンター方式の様式を参考にし、作成した記録用紙を使用し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時や必要時に職員間でカンファレンスを開催しており本人や家族の意向、担当医の意見を参考に介護計画を作成している。	更新時や身体状況に変化があった時には職員間でカンファレンスを開催しており、医師には往診時や電話で意見を聞き、家族、本人の意向を踏まえ、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を細かく記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院援助や行事等で苑の車を使用し、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町、区主催の行事や社協のやすらぎサロンへの参加、小中高生との交流、ボランティアの受入、また消防や警察等、様々な地域資源と協働できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自、希望する医療機関を利用されており、定期的な往診、受診、その他緊急時等の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。	家族や本人の希望する医療機関を受診されている。通院は家族が対応しているが、車椅子の方や家族の都合が悪い時は職員が対応し事後報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており地域の訪問看護と協力し適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過を問い合わせたり、面会に行き状態を確認し主治医と相談の上、早期退院が出来るように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合等の説明は入所契約時に行い、本人、家族の意向に添えるよう支援している。	ホームでは終末期までの対応はできるようになっており、家族には入所契約時に説明を行っている。重度化した場合には家族、医師、職員が密に連絡を取り合い、終末期のあり方についてその都度話し合いを行い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立会にて年二回避難訓練を行っている。	施設全体で、年に1回は消防署が立会い、もう1回は自主訓練を昼、夜を設定し行っている。また、訓練時には消火器の使い方や、点検も行っている。湯浅町の避難訓練にも職員が参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したケアや言葉かけを行い、ケアの内容が周囲に安易に伝わらないようフロアでは個人名ではなくイニシャル使用や記号を用いている。	一人ひとりの人格を尊重し、利用者の訴えは必ず受け入れるようにしており、ケアを行う際もさりげない態度や声掛けを行っている。また、個人情報などは外部の人からは目に付かないようにカウンターの下やカギのかかっている所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切に自己決定出来るような場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合わせ、その人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる(好みのDVD上映、外出など)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの好みの服装、化粧など出来るよう家族に協力してもらい支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、下ごしらえから後片付けまで一人一人の力を見極め、出来ることを行っている。	盛り付けやテーブルを拭いたり、ご自分で食事をテーブルまで運んだりされる利用者もおられる。また食事には、苑で作られた、野菜が盛り付けられていたり、自分の好物は買い物に出掛けて買ってきたり一人ひとりの好みを活かせるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握、栄養バランスに注意し、一人ひとりの状態や好みに合わせながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ口腔ケアを行っている。希望者は週一回、歯科衛生士による訪問口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握しており、個々の力に合わせ誘導等を行うことで自立に向かうよう取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握し、それぞれに合った誘導等を行い自立に向けた支援を行っている。またその日の体調に応じて対応を変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や食前の軽い体操を行なっている。緩下剤が処方され内服している方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴できるようにしており、希望に添えるよう支援している。	好きな時間、気の合う人と一緒に入浴されており、希望すれば毎日入浴することが出来る。介護度の高い方には安心して入浴が出来るように機械浴もあり、その人に合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて休息や睡眠ができるよう環境整備や言葉かけ、時には軽食や菓子を提供する等工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書ファイルや医療のノートを活用し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中では、洗濯や調理など一人一人に合わせた役割の提供や外出や催しを行うことで気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物外出、そのほかドライブや外食、遠足等家族の協力も得ながら外出の機会を多く持てるよう支援している。	外食や遠足など家族の協力を得ながらの外出や、気分転換に近くに散歩に行くなど、外出の機会を多く持てるよう支援している。また、家族と一緒に買い物に出かけられるようにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を所持されており、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は苑の電話を自由に使ってもらっている。また自室に電話を設置することも可能である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・湿度などに配慮し居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。またトイレ、自室の目印や季節の花を飾ったり手作りのカレンダーと壁紙を毎月掲示している。	フロアは明るく、ブラインドで光を調整でき、壁には大きな手作りのカレンダーが貼ってあり、ゆったりとくつろげる。また高さ調整が出来るテーブルが用意されており、利用者が食事などが行いやすい環境が整っている。	地域の自然環境(花・野草など)の変化をフロアの中へより多く取り入れて頂く事で今以上に利用者の五感を刺激される事を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で談話や作業ができるよう環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具など自由に持ち込んでもらうことで居心地良く過ごせるようにしている。	状態に応じて、部屋に畳を敷いたり、ソファを手すり代わりに使えるように配置し、利用者が安心して過ごせるように工夫している。また今まで使われていたベットや家具なども自由に持ち込んで居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ居室の畳対応や転倒防止のため為のソファの設置、ほうきや物干し竿などもホールの安全な所に用意しており、力に応じ自立した生活が送れるよう工夫している。		